

黒石野中学校
研修を終えて

大村 圭緒

わたしがこの研修に参加するきっかけとなったのは、作文コンクールでした。わたしは海外に出かけることが好きで、少しでもチャンスがあるのなら、と、頑張っただけでも先生に見てもらって書き直し、やっと書き上げた作文。見事、二次に進むことができました。スピーチコンテストでは発表順を決めるくじで1番を引いてしまい、少し戸惑いましたが、わたらしいスピーチができたと思います。

はじめての団員との顔合わせは、コンテストを通じてきた人以外とは初対面だったので、とても緊張しました。でも、みんなとてもいい人たちで、なんだかうれしかったし、このみんなとなら絶対大丈夫だ、と思えました。

何度か研修を積んだのち、いざ出発。国を出るということは、とてもワクワクしました。離陸の瞬間。わたしはビクトリアへ向かっている、と実感しました。

カナダという国へ行くのは生まれてはじめてで、どんなところなのかとても興味がありました。ビクトリアへ行って最初に思ったのは、「きれい」でした。ふつうの住宅街も、街並みも、すべてがきれいでした。わたしは感激で胸がいっぱいでした。

そしていよいよホームステイがはじまる日、すごくドキドキしてどうにかなりそうでした。団員の中でいちばん先に名前を呼ばれたわたしは、ホストマザーと一番早く対面しました。「つかれてない？」などとわたしを気づかせてくれました。ホストファザーも、子どもたちも、とてもいい人でした。犬と一緒にいるなど、ところにわたしをつれていってくれました。たくさんのきれいな景色を見て、もっともっとビクトリアが好きになりました。

ホストファミリーとのお別れ、出国。日本を出るときには考えることさえできなかった大きな何かが、わたしの中にありました。大きくて、夢のようで、でもどこかあったかい、そんなものです。

この研修を通して、11人の仲間と、ビクトリアでの思い出と、大きな宝物を得ることができました。きっとわたしはこれからも、この1週間を忘れません。そしていつか絶対、ホストファミリーに会いに行きます。

厨川中学校
素直に、褒められる

小田 大夢

私が、この研修を終えて成長したなと思うことは、コミュニケーションをとるのがうまくなったということと、自分の気持ちを表現できるようになった事です。

例えば、私は今まで褒められると、そんなことないよと、日本人にはよくありがちな事を言うてしまうことが多々ありました。日本では、それがあたり前であり、むしろ美学ともいえる日本人の謙遜。しかし、海外では通用しません。素直に褒められることが美学なのです。それは、日本を出発する前から、耳にたこができるくらい聞かされてきました。最初は、褒められることが、違和感のようなものがあつたのですが、慣れくると、褒められる事がうれしいし、自然にありがたうといえるようになっていました。また、褒めるとありがたうって言うてくれるので、こっちまで温かい気持ちになって、もっと褒めてあげたいとさえ思いました。

謙遜するということは、意外と難しいものです。日本人である僕は、謙遜がうまくできません。なぜなら、そんな事ないよといった後に、会話がうまく続かないからです。研修を通して僕は、素直に褒められる、また、褒める事を学びました。今まで見つからなかったパズルのピースが、はまった感じがします。

また、自分を表現できるようになったのも大きな収穫です。自分が、どんな人なのか説明できるようになったのはもちろん、自分の気持ちをうまく表現できるようになったと思います。自分は、今幸せだとか、悲しいとか、感情表現ができるようになったと思います。そのかいあって、筆箱をなくした時に助けを求めたり、相談したりできて、問題を解決するだけでなく、彼等とより親密になることができました。彼等とは、今でもやり取りをしています。僕は、親切にされた事を絶対に忘れないし、これからも交流を続けていきたいと思います。ホストファミリーとも、カナダの友達とも、もう一度カナダに戻ってくるよと約束しました。僕は、その約束を守るために、奮闘したいと思います。

この研修で、僕が学んだコミュニケーションのとり方は日本でも通じるのでしょうか。前は、人づきあいの間合いとかを考えてしまっていたのだけど、ものすごく近くていいんだと思います。お互いの気持ちをぶつけ合って、気持ちを確かめ合って、前より仲良くなる。そんな友人関係を築きたいと思いました。

岩手大学教育学部附属中学校
みんなにありがとう！

小林 英里佳

私にとって、今回のビクトリア研修は久しぶりの海外となりました。また、現地の学校やホームステイは初めての経験でした。今まで、「英語を使い、人と1対1で話す」ことは私が苦手としてきたことです。だから最初は、楽しみというよりは緊張の方が大きかったように思います。その中で、特に印象に残っていることは、学校で過ごした日々でした。

最初に校内へ入った時は、驚きの連続でした。私服で自由に行き交う生徒達、カラフルな廊下。普段とはまるで違い、全てが新鮮でした。もっと驚いてしまったことは、授業です。それぞれの時間ごとに自由に席を替え、途中なのに教室を出ていく子もいました。日本ではありえない光栄に、あっけにとられていました。しかし、生徒達が先生に気軽に質問し、そして先生が笑顔で答える。誰かが冗談を言うと、全員で笑う。誰かが実験がしたいというと、先生があっという間に準備をして、前に集まって観察する。まるで生徒が授業を作っているようでした。さらに、先生と生徒が友達のように話をしている光景もみられ、とても良い雰囲気でした。

授業を終えて廊下へ出ると、すれ違った生徒みんながあいさつをしてくれました。思わず私も手を振ったり、笑顔で進んであいさつをしました。初対面の人でも気にせず話しかけてくれたり、分からない英語をゆっくり説明してくれる子もいました。知っている、知らないに関らず、積極的に行動する姿勢は、とても素敵だと思いました。学校のみならず、明るさと積極性と笑い(少し大胆さも...)を学ぶことができました。いつかまた、みんなに会いたいです。

忘れられない思い出の2つ目は、ホストファミリーとの生活です。私は早い英語を聞き取るのがでんでダメでした。13歳のイザベラやお母さんのエヴァには、特にも、迷惑をかけたと思います。それでも嫌な顔ひとつせず絵を描いてくれたり、ジェスチャーをしてくれました。本当に感謝しています。

今回の研修では、人との出会いがたくさんありました。特にもこんな素敵なメンバー12人で行くことができて、本当に嬉しかったです。みんなありがとう！

北陵中学校
研修を終えて

齊藤 悠元

僕は、今回のカナダ・ビクトリア研修を終えて、主に三つの事を深く感じました。

一つ目は、「人との関りの大切さ」です。僕自身、一回目の事前研修会の際、なるべく人とふれあう事を避けようとしていました。僕は、本当に人見知りです。研修に行く事が最初は嫌なくらいでした。ところが、研修の中で団員とのコミュニケーション作りのゲームや自己紹介の場を重ねていくごとに、団員一人ひとりの新しい一面を発見出来たり、自分の事を周りに発信することが出来る事が、とても楽しい事だし、今までの自分は周りの人を知るチャンスを無駄にしていたと自分の失敗にも気づく事が出来ました。その後の研修では、主に、男子との交流を活発にしたり、プレゼンテーションの話し合いの場では、積極的に自分の意見を述べられるようになりました。これは、今回の研修が無ければ気付かなかった事だし、この事に気付いていなければ、僕は一生、損をしていたかもしれせん。これも研修を通して発見できた事です。

二つ目は、「仲間がいること」の強さです。実際に、カナダのビクトリアに行ってみると、聞こえてくる言葉は「英語」で、人の風格も日本とは何か違う感じでした。僕は、そんな「いつもとは違う」という事に恐怖心を抱き、笑顔なんかつくる余裕もありませんでした。そんな時、自分に光をくれたのは、仲間のみんなでした。他の人達は、僕とは正反対に寧ろその「いつもとは違う」事を楽しんでいるかのように見えました。そんな仲間達から僕は一人ではない事を思い出し、それを自分の勇気に変えて、とても有意義な三日~十日の八日間を過ごす事が出来ました。団員の皆さんには、感謝の気持ちでいっぱいです。有難うございました。

そして三つ目は、「経験」することの大切さです。僕は、とある掲示板の中にあつたこの研修の宣伝を見て応募しました。最初は、何の気なしに応募したこの研修でしたが、帰ってきて研修を終えてみると、この研修は今後の自分を変えていく大きな道導(みちしるべ)となるに違いない。そう強く感じています。特に今の時期は、変わる事を恐れずに、「自分の中で新しい事に挑戦するためにある」と感じています。だから僕は、新しい事に挑戦していきます。

団員の皆さん、協力して下さった皆さん、本当に有難うございました。

見前南中学校
でっかい世界

佐々木 虎

この研修を通し、世界はでかいなと思いました。自分の考え方の小ささ、心のせまさを感じました。異国に行き全くもって知らない場所ですごし、日本しか知らない僕は本当に楽しく、そしてたくさん学んだ。

言葉、接し方、表情などの違いをすべての五感で体感してきました。1番印象深く楽しかったホスト校での活動では、毎日が楽しく別れ惜しかったのをよく覚えています。今でもメールなどで交流ができ、海外の友達ができてとてもうれしく思っています。ビクトリアの中学生の接し方はとてもハッキリしていて、何かあるとすぐ言うてくれたのですごく助かりました。

今思うと、日本の中学生しか知らなかった僕にとって、異国の地の中学生とふれあうということは、本当に素晴らしい経験ができたと思います。ホスト校でたくさん活動したことで僕は初めて日本とちがう「文化」にふれられたと思いました。日本にいたときは日本しか知りませんでした。でも異国の地で、そして同年代の子たちとふれあうことで同じ目線で両国の違いを感じることができました。

しかしすべての活動において支えてくれたみんながいなければ、僕はこんなに素晴らしい経験はできていなかったと思います。チームのメンバーや研修団のみんな、などたくさんの人に支えられてこの研修をやりきれたのだと思います。

プレゼンテーションを一緒にやったチームのみんなには、いつも迷惑かけていたと思います。でも一緒にたくさん考えたり、どうしたらうけるか話したり、ふざけたり、会って何ヶ月のメンバーとは思えないくらいに楽しかったです。僕は研修を通してカナダの友達と日本の友達ができました。

最後に、初めて海外に行き、どう生かしたいか書きます。日本人として海外に行き、日本を誇りに思う事、それは一番大切だと思う。海外に行っても日本の紹介をしっかりとできる。これはとても大切なことだと思う。そして日本人の繊細な性格。カナダのあたたかくハッキリとした性格。この2つの良さを「日本人」として受け入れ、海外にいて世界に通じる人間になりたいと思う。たくさん経験をありがとう。一生忘れません。ps女の子のことも忘れない。

下橋中学校
Good Luck

智田 茜

私にとって、今回の研修はとても特別な存在でした。なぜなら、二年分の思いがかかっているからです。昨年、私は友達と一緒にこの研修に参加するためのスピーチコンテストに参加しました。一次試験を二人揃って突破し、「一緒にビクトリア行こうね。」と約束した矢先、私は二次試験を辞退しなくてはならなくなりました。結局、友達は二次試験を突破し、ビクトリア研修へ参加しました。悔しくて悲しくて、私は、来年こそ絶対に研修に参加しようと決意しました。

そして今年、決意を新たにスピーチコンテストに参加し、無事一次試験、二次試験を突破することができました。

研修初日。半分以上が初めて会う人で緊張したけど、みんな明るくてすぐ打ち解けることができました。

それから何回か研修を重ね、ついに迎えた出発！二年分の思いがかかったビクトリアへ、私はいよいよ飛び立ちました。勿論、ビクトリアでのカナダライフは、私にとってとても充実したものになりました。

まずホームステイ。リリアンとアリッサはすぐ私になついてくれて、そしてベティーナもシェーンも優しく嬉しかったです。縁者らとは一緒にドラえもんを見られて楽しかったし、仲良くなれて嬉しかったです。とにかく嬉しいことと楽しいこと満載のホームステイでした。

次にホストスクールでの授業体験。ゼファーをはじめとして友達になってくれたみんなと一緒にホッケーをしたり、おしゃべりしたりできてとても楽しかったです。

今回ビクトリア研修に参加するにあたってお世話いただきました。ヒロ先生、町田先生、久美先生、団長さん、伊藤さん、ホストスクールのみんな、ホストファミリーのみんな、ガイドをしてくださった伊藤さんなど、たくさんの方々のご協力があったからこそ、私は今回このような貴重な体験をすることができ、こうして大きく成長することができました。Thank you very much. 皆さんに幸運が訪れますように。Good Luck !!

巻堀中学校

久慈 健史

カナダってとにかくサイコー!!

このビクトリア研修は僕にとってまさに「光陰矢のごとし」毎回毎日が新鮮で楽しくて、本当にあっという間に過ぎていきました。この研修を一言で表すと「Wow! crazy! haha!」そんな感じです。驚きの連続、感動の連続で、とにかく Crazy で(もちろん良い意味で) awesome で素晴らしい体験でした。

ビクトリアの人達は何よりおおらかで人に対してあまり壁を作りません。日本人だと自分たちと少しでも条件が違ったりするとその人に対して壁を作りがちです。でもビクトリアの人達は違いました。初対面で少し目が合ったりしただけですぐに笑顔で反応してくれたり「Hi!」と声をかけてくれたりと、人に対する壁が低くフレンドリーでとても優しい人達でした。人間性という面でも男子、女子、年齢問わず本当に充実しているなあと思いました。そんな中で今一番自分が悔いていることは「積極的に」会話、それ以前に話そうとする姿勢にあまりなれなかったことです。せっかくの滅多にないチャンスを少し棒に振ってしまった気がしています。うまく話そうとして、変な文章になったとしても少しでも多く言葉を交わして伝えようとする姿勢を忘れていました。もっともっと自分から話しかけていけば、break していけば良かったなあ今強く思っています。それともう一つ。何かしら質問されたときに自分の意見を伝えようとしなかったことです。英語の語いを覚えたりする前に、まず自分の視野を広げて、意見を一つ一つしっかりもつということ、そして自分の国のことをよく知り、誇りをもつことが何より大切なんだと気づかされました。また、今回はカナダだけでなく、ホストファミリーがインド人だったので、インドの文化や食事にも触れることができました。最初はいろんな意味で驚いていた自分もいましたが、実際に一緒にすごして見るとカナダの人達と変わらないとても優しくいい家族でした。

今の僕の目標は、十数年後、またカナダに行ってビクトリアの家族や友達に会いに行くことです。そして1人の日本人、1人の国際人として今よりももっとも成長した姿を見せて逆にカナダを圧倒させてやりたいと思います!! I will rock you!!

最後に、この研修を支えてくれた事務局の方々、先生方、そして11人の仲間たち、カナダの人たちに心からお礼を言いたいです。全てみなさんのおかげです。Thank you so much !!

巻堀中学校

八重畑 怜那

研修を終えて

私はこの研修の話を聞いた時、英語に自信がないことと、私の他にふさわしい人がいるのではないかという思いから、参加に消極的でした。最初の研修で、自分とは違い英語が上手なみんなに自分とのギャップを感じ落ちこむこともありましたが、でも、研修を重ねていくうちに、団員のみんなとも打ち解け、また、研修アドバイザーのヒロ先生や事務局の方、先生方の話を聞いて、抱えていた不安も減り、ビクトリアでの研修に前向きな気持ちになれました。

いざビクトリアに行くと、初めての海外で戸惑うことが多々ありました。しかし、ホストファミリーやホスト校のみんながフレンドリーに接してくれたおかげで、不安な気持ちが吹っ飛びました。

私がお世話になったホストファミリーは、ホストファザーのBrian、ホストマザーのKristina、もう少しで1歳になるとてもかわいい女の子のBrooke、猫のDagnyの温かい家庭でした。特にKristinaとは、夕食後に毎日会話をしました。私は、片言の英語とジェスチャーを駆使して、日本の生活習慣や文化、私の家族のことを精一杯の表現で紹介しました。また、カナダではどうなのか、や、Kristinaの家族の話も聞きました。この会話を通して、お互いのことをより知ることができました。日本や家族の紹介をするときや聞いたことへの反応が言葉足らずで自分の言葉にできず、もどかしさを感じることもありましたが、ホストファミリーとは充実した時間を過ごすことができました。

ホスト校では、国を越えて友達ができただけでなく、今まで一生懸命準備をし、リハーサルを繰り返してきたプレゼンが成功したことが、何より嬉しかったです。もちろん緊張はしましたが、自分も楽しんで、ホスト校のみんなも盛り上がり上げてくれて、もっとやりたいと思うほどでした。

この研修を通して、言葉は、たくさんあるコミュニケーションの方法の一つでしかないことが分かりました。それと同時に英語の必要性も実感しました。英語ができればさらに通じ合うことができると感じたからです。

これからはもっともっと英語を勉強して、研修で出会った人達とこれからも交流をしていきたいと思えます。そして、国際交流で社会に貢献できる一人前の大人になって、もう一度カナダに行きます!ありがとうございました!

仙北中学校
想いの力

宮澤 晃太

自分にとってこのピクトリア研修は、本当に人間として大きく成長できた素晴らしいものでした。しかし研修最初は不安で一杯でした。海外に行くのは初めてだし、その前に一緒に行くメンバーとも仲良くなれるかという気持ちが心を覆っていました。ですが事前研修を重ねるうちにしだいに仲は深まり、ものすごい団結力が生まれました。出発の前にはもうこのメンバーなら失敗はないと確信しました。無事終わった現地での研修は今思えばと多くの事を考えさせられます。

一番に想うのは国境を越えた、人と人の繋がりについてです。現地では本当に多くの人にお世話になりました。振り返るだけで数え切れないほどの人が頭に浮かんでいきます。ホストファミリーのみんな。ホスト校のみんな。確かに言葉の壁はありました。だけど互いに壁を何とか乗り越えて相手の事をもっと知りたい、仲良くしたいという純粋な想いをみんな持っていました。互いを強く想う気持ちは力となり、コミュニケーションにつながりました。国境を越えたって、人と人の想いは通じるものだと思えました。自分はこの時初めて、本当に絆、人とのつながりの意味が解かった気がしました。

現地の人ではなく、盛岡の人にも本当にお世話になりました。まず研修団のみんな。みんながいなければこんなにも楽しい研修にならなかったと思います。みんなが優しいからこそ自分をさらけだし気がねなく過ごすことができました。先生方にも、いつも影で支えてもらいました。特に研修アドバイザーのヒロ先生には、自分が味わったことのないような新鮮な話をしてくださいました。ときには自分を叱ってくれて本当に優しさを感じました。恥ずかしいのでこの場を借りて研修団のみんな、先生方「本当にありがとう!! (Thank you !!)」

自分は研修で、カナダはもちろんのこと日本も、両国大好きになりました。そしてそこに住む相手を想いあえる人達も大好きになりました。自分は将来、人のために全力を尽くす人間になりたいと思います。その中でも、今回学んだ「想いの力」を決して忘れずに、前へ進んでいきたいです。私は、国境を越えた人達、身近な人達と、とにかく様々ですが、人と人をつなぐ小さなかけ橋になりたいです。

仙北中学校
人と人のつながり

及川 啓乃

今回の研修を通して学んだ事、それは「人と人とのつながりは思いを伝えようとする努力から始まる」という事です。これは、私が初めての海外研修で強く感じた事でした。

この研修で1番不安だったことは言語の違いです。「通じるか」「理解できるか」そんなことばかり考えていました。しかし、ホストファミリーと出会い、ホームステイをしていくうちに、そんな不安はなくなりました。それは、ホストファミリーの言っていることがわからなかった時、「Sorry」と言うと、「OK」と言ってゆっくり、わかりやすく何回でも教えてくれるからです。そんなホストファミリーを見て私も「わかってもらえるまで伝えよう」と思い、一生懸命表現しました。すると、初めは続かなかった会話もだんだんはずむようになりました。そのとき「不安になって伝えないよりも、前向きに一生懸命伝えることが思いがつながり合うためのコツなんだ」と思いました。これは、学校でも同じく、コミュニケーションがとれるたびにとても楽しくなりました。ホストファミリーとのお別れの前日。ホストファミリーが私のためにパーティーを開いてくれて、ケーキをごちそうしてくれました。あの、ホストファミリーと過ごした日々は一生忘れません。言語が異なっても思いが通じ合うことのできる素晴らしさを学べた今、思う事があります。それは「言語が同じ、異なるにかかわらず、これからは自分の思いをしっかりと伝えて、人とのつながりを大切にしていきたい」ということです。

この研修で初めて体験できたこと、自分の思い、人とのつながりは私の宝です。これからの将来、どんな形であろうと学んだことを生かしていきたいです。そして、一緒に活動し支えてくれたメンバーのみんな、先生方、家族、本当にありがとうございました!!私はこのメンバーだったからこそ、本当に楽しく研修できました。これからもずっとこの出会いを大切にしていきたいです。

最後に、この研修の全てに感謝しています。私の初めての海外研修はとても素晴らしいものになりました。本当にありがとうございました。

河南中学校
人とのふれ合い

吉田 大輝

僕は今回のカナダ・ビクトリア研修が初の海外でした。飛行機に乗るのも初めてで、不安が多かったです。向こうの人たちとふれ合う度に、その不安は消え、楽しく、充実した研修にすることができました。

そんな研修の中で一番印象に残っているのはホームステイです。最初の日はホストマザーと7歳の女の子テイラーちゃんが学校まで迎えに来てくれて、その車で展望台がある山までつれていってくれました。ホストマザーは気さくで、表情をつけて分かりやすく僕に話しかけてくれました。そんなホストマザーに安心して、その後の生活を緊張感なく過ごすことができました。ホストファザーも優しく、二人の子どもの世話をきっちとする完璧なイクメンという感じでした。僕が言おうとしていることを分かってくれて、僕にも分かるようなジョークを言ってくれました。また、お皿を運ぶなど、ほんのささいな事でも「Thank you!」と言ってくれました。

ゴードンヘッドミドルスクールでは、ろう下を通るたびに「Hi!」と声をかけてくれて、ハイタッチもしてくれました。プレゼンの時も盛り上げてくれて、本当に自分自身も楽しく過ごすことができました。

この研修を通して、人とのコミュニケーションの大切さを学びました。言葉だけでなく、顔の表情やジェスチャーなどで伝えようとすると、必ず分かろうとしてくれました。これは、日本もカナダも同じだと思います。目の前にいる人に何かを伝えること、伝えようとしていることを受け取ろうとすること、これが人と人とふれ合う時の第一印象だと思います。

最後に、研修アドバイザーのヒロ先生、千葉先生、町田先生、団長、一緒に行ったメンバーのみんな、本当にありがとうございました。

またいつか、ヴィクトリアに行きたいです。

河南中学校
ありがとう！

吉田 ももこ

はじめていく海外、はじめてのホームステイ。はじめてだらけのこの研修は、とても楽しくて、この先忘れることはないでしょう。

実は英語が苦手な私です。最初はすごく不安に思っていました。でもそんなこと、すぐにふっとびました。たぶん何をして初めてのことだらけで、おどろいてばかりだったせいだと思います。

さすがに、いざホームステイというところになると不安が戻ってきました。同時に緊張もやってきました。そんな気持ちで対面したホストファミリー。正直伝わらないのでは？と心配しながら話していたので、安心しました。たぶん、こっちも一生懸命話そうとしているのと同じように、ホストファミリーも一生懸命分かるようにしてくれていたのだらうと思います。本当にやさしい人たちです。

どうでもいいですが、よく文系に見えると言われる私ですが、運動がすきです。ホストファザーと卓球やバットニング、キャッチボールをしました。バットニングやキャッチボールでは、アドバイスをくれたり、今度はもっといい季節にやろうと言ってくれたりしました。運動でもコミュニケーションがとれる事を知りました。とても楽しかったです。だけど、それをうまくいえなかったのがとてももどかしく感じられます。私が知っている、「楽しい」や「うれしい」を表す英語はとても少なく、日本語では一言ですむのに、とったりもしました。私にとって、もっと知りたいのに、もっと伝えたいのに、自分の力がないせいでできないというのは、つらいことでした。そんな中で役に立ったのがジェスチャーです。ジェスチャーの大切さを知りました。

これから英語の勉強をたくさんします。ただ知識を得るのではなく、「伝える」ための勉強です。もっと世界のことが知りたい。「知る」ための勉強をします。がんばるぞ！

最後に団員のみなさん。最高の仲間です。これからもずっと。そしていろいろ心配をかけたり、お世話になった、先生たち、団長さん、ホストファミリー、家族にありがとうを伝えたいと思います。

仙北中学校教諭
出逢いを大切に

町田 典子

久しぶりの海外に胸が高鳴りました。若い頃、様々な国を訪れ、実際に見たり、体験したり、交流をした楽しかった日々がよみがえってきました。ただし今回は研修の引率という初めての体験。個人旅行とは違う責任を伴う緊張感も体験させていただきました。

今回研修を共にした12名の生徒達は、一人ひとりしっかりとした考えを持ち、相手を受け入れながら熱心に研修に参加していました。限られた研修時間もスムーズに進み、大変頼もしいメンバーでした。研修中は、初めは緊張し、不安だった生徒達も、日に日に積極的に交流し、会話を楽しんでいました。生徒達のキラキラとした表情は忘れられません。現地でのプレゼンテーションも堂々とした素晴らしい発表でした。

ゴードンヘッドミドルスクールでは、校長先生、副校長先生に大変お世話になりました。常にお二人が私達を気遣いサポートしてくださいました。また、スタッフルームでは、新年度のお忙しい時期にもかかわらず、たくさんの先生方が気軽に声をかけてくださいました。特にプレゼンテーションが終わった後は、廊下で出会う方々皆さんに「素晴しかったよ」というお褒めの言葉をいただきました。とても気さくで温かい素敵な人達でした。

ホームステイは、久美先生と同じお宅にお世話になりました。料理上手でとても明るく、やさしい素敵な女性でした。子育てや学校教育の悩みなど、国を越えて、お互いの考えを交流しあえたことは、大変良い思い出です。もっと話がしたかったなあと思いました。

ビクトリア市への8日間の研修は、私にとって大変思い出深い貴重な体験となりました。たくさんの人々に出逢い、交流することが出来、充実した日々を過ごすことができました。この出逢いを大切にしたいです。

今回の研修を通して、自分自身もっともっと英語を勉強したいなあと感じました。そしてやはり言語は使うもの。今後も様々な言語と触れ合い、活用しながら世界中の多くの人々と交流を深めていけたらいいなあと思います。このような研修の場を与えてくださった方々、そして今回の研修をサポートしていただいた皆様方に感謝致します。

北陵中学校教諭
Special Thanks

千葉 久美

今回、縁あって、大好きな街ビクトリアを再び訪問できたことを大変嬉しく思います。

私自身、中学時代に初めて海外研修に参加し、ホームステイや学校訪問を体験しました。その時の「気持ちが伝わるってこんなに嬉しいんだ!」という感動や、うまく話せない、聞き取れないもどかしさと悔しさからの「もっと英語で話せるようになりたい!」という目標が、その後も英語を学び続ける上での大きな励みとなっていました。

この度、引率として本研修に参加させていただき、自然や文化の美しいビクトリア市で12名の団員とともに多くのことを体験し、感じ、学んでこられたことに感謝しています。

始めは不安そうだった団員の表情も日に日に明るくなり、ホストファミリーとコミュニケーションをとって心を通わせ、友達もたくさん作って学校生活を満喫している様子がみられました。言葉や文化の違いを越えていきいきと活動する姿は、とても頼もしかったです。たとえ言葉がすべて通じなくとも、伝えたい、分かりたいという強い気持ちがあれば人はつながることができるのだということをきくと実感したのだと感じ、嬉しく思いました。

5日目、大成功のプレゼンテーション、ほんとうに素晴らしかったです!限られた時間の中で臨機応変に動き、これまで積み重ねてきた練習の成果を出し切ることができました。GHMSの生徒さんがあんなに喜んでくれたのは、団員の皆の心からの笑顔と、「伝えよう」とする一生懸命さが届いたからなのだと思います。Great job!

ビクトリアでは、お会いする方誰もが私たちをとっても温かく歓迎してくださいました。"I will come back someday."と別れ際に約束していた皆、お世話になったホストファミリーや仲良くなった友達に、いつか本当に会いに行けたらいいね!

4人ずつのthree small teamから始まったビクトリア研修、いつのまにかそれは12人のone big teamになっていたと思います。学校を越えて出会い、仲間となった団員の皆さん。あんなに楽しい時間やたくさんの思い出を共有することができて本当に嬉しかったです。どうもありがとう。

最後に、この研修に関わったすべての皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

第 19 回 中学生ビクトリア市研修

団長 佐々木 幸司

私たち第 19 回中学生ビクトリア市研修団は、平成 24 年 11 月 3 日から 11 月 10 日までの 8 日間の日程でビクトリア市を訪問し、ゴードンヘッドミドルスクールにおいて研修を行ってきました。

今回の研修が昨年度までと異なっていたのは、研修団の規模が例年より少ない 12 名の生徒と 3 名の引率者の 15 名であったことです。人数が少なかったことが幸いしたのか、生徒達は、初めて集まった 1 回目の事前研修のときからすぐに打ち解け、素晴らしいチームワークを発揮しました。ビクトリア市長に対する英語での挨拶担当など、研修中のそれぞれの役割を決定する際にも、すぐに立候補者が出て、もめることもなくあっさりと決まってしまうました。このチームワークの良さや積極性は、ビクトリア市における研修中にも途切れることなく続きました。

特に、3 つのグループに分かれて日本の文化を紹介したプレゼンテーションでは、他のグループを手助けするため、自分達で相談してそれぞれの役割を決め、さらに時間の調整のため内容を変更するなど、大いに自主性を発揮してくれました。皆の努力の甲斐あって、プレゼンテーションは大成功となり、ケリー・ブレント校長先生をはじめ、学校の皆さんから「とても素晴らしいかった。」と賞賛の声をいただきました。

生徒達は、英語が通じないことも多かったでしょうが、身振り手振りなどいろいろな手段でコミュニケーションをとりながら、学校では多くの友だちを作りましたし、先生方やホームステイ先のファミリーとどんどん親しくなっていました。自然に溶け込んでいく若さに感服しました。学校においても、ホームステイ先においても、日本には吸収できない様々なことを学び、多くの思い出を作ってきたものと思います。彼ら彼女らのこれからの人生にとって、とても意義ある経験になったと確信しています。

お世話になったゴードンヘッドミドルスクールでは、校長先生、副校長先生をはじめ、職員の皆さんが素晴らしい体制で迎えてくれました。私たちを自由に行動させてくれましたが、要所では適切な配慮に欠けることがなく、ゆったりとして落ち着ける環境のもとで研修することができました。また、ビクトリア市役所やビクトリア盛岡友好協会の皆さんをはじめ、多くの方々から今回の研修団も大変お世話をいただきました。とても感謝しています。

この研修は私にとっては初めての海外旅行であり、しかも団長として研修団を率いる立場でしたので、かなり緊張した毎日が続くのかと思っていましたが、一緒に引率した町田先生、千葉先生と素晴らしい生徒達のおかげで楽しい経験となりました。どうもありがとう。